

趣味週間「髪」の多数貼り外信船便

永吉 秀夫



12倍重量書留船便書状 TOKYO 1969. 6. 25 → ドイツ

大型封筒に大型の趣味週間切手が10枚も貼ってある豪快なカバーです。他に100円普通切手が3枚、計450円分の切手が貼られています。東京中央局切手普及課の名称が入った封筒で、中には記念切手のシートがどっさり入っていたのでしょう。

封筒下端の書留ラベルの下には、「6-13 240gr. S. R. 450」という文字がタイプされていますが、240grが重量、450が料金を表しているようです。「S」はSurface(平面路便)またはSea(船便)、「R」はRegistered(書留)でしょうか。240グラムは12倍重量(20g×12=240g)なので、船便書状料金は50円+30円×11=380円、これに書留料70円を加えて、確かに450円となります。

国際郵便はすでに航空便が当たり前の時代でしたが、この重量だとかなり高額になります。当時のドイツあて航空便は10gまで110円、超10gごとに100円増だったので、もしこの郵便物を航空便で送ると料金は110円+100円×11+書留料70円=1270円ということになります。これではやはり船便で、となったのでしょうか。今だったら船便950円、航空便1080円で大した料金差はありません。船便を選択する人はよほどの変人でしょう。

切手普及課発の郵便物にはさまざまな記念切手が貼られていて楽しめますが、紹介品もその仲間です。但し大型封筒が多いので、アルバムリーフに貼るのに苦労します。ダブルリーフを使うほどの品物でもないのに、90度回転させて縦長の形にして、ぎりぎりポストークサイズのリーフに貼ることができました。